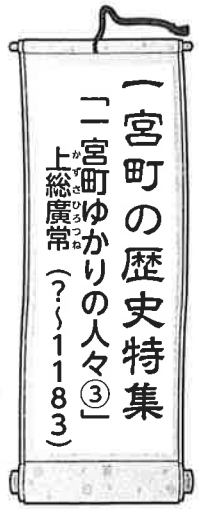


平成28年8月号



「一宮町ゆかりの人々」第3回は「上総廣常」を紹介いたします。

上総廣常は謎の多い人物です。ただ安房(千葉県南部)で再起を図ろうとした源頼朝が最も頼りにした人物であり、そして頼朝の挙兵を成功に導いたのは廣常が味方したからだと言っても過言ではありません。

上総氏は房総平氏の棟梁であり、上総・下総に多くの所領を有し、東国でも最大の勢力を誇っていました。廣常はその上総氏の当主でしたが、廣常の前半生はわからないことが多く、その活躍が確認できるのは頼朝の挙兵の時です。

治承4年(1180年)、平家打倒のため伊豆(神奈川県)で挙兵した頼朝は石橋山の戦いで敗れ、安房に逃れてきます。再起を図った頼朝は廣常や千葉常胤を頼ります。当初、廣常はすぐには参陣しませんでした。隅田川辺りまで頼朝が進軍したところで2万騎の軍勢を率いて参陣します。数に誇張はあるでしょうが、東国有数の大軍勢でした。

頼朝に従った廣常は常陸国(茨城県)の佐竹氏討伐などで功績を挙げ、頼朝の御家人として活躍します。しかし、

無礼な振る舞いが多かったようで、だんだん頼朝から疎まれるようになったといえます。

そして寿永2年(1183年)、廣常は謀反の疑いをかけられ、鎌倉で殺されてしまいます。嫡男は自害、その他一族も処罰され、上総氏は所領を没収され没落します。

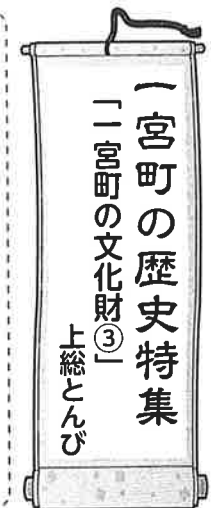
翌年、生前に廣常が玉前神社に奉納した鎧の中から頼朝の武運長久を祈願する願文が見つかり、廣常の謀反の疑いは晴れ上総一族は赦免されました。廣常の居館は玉前荘にあつたといわれ、高藤山城(一宮町)や大柳館(睦沢町)がその候補として挙げられていますが、明確なことはわかっていません。高藤山城の山頂には江戸時代に一宮藩主・加納久徴が廣常の武功を称えて建立した「古蹟の碑」があります。



▲高藤山城址山頂の「古蹟の碑」

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416

平成28年9月号



「一宮町の文化財」第3回は「上総とんび」を紹介いたします。

上総とんびは江戸時代、地曳網漁が盛んに行なわれていた頃に生み出された凧です。漁師が大漁の時に着る「万祝着」という着物と同じ形の凧で寛政3年(1791年)、一宮の字東村の重右衛門の創始と伝えられています。以後、代々嵯峨野家で一子相伝として伝承され、現在の嵯峨野彰氏で10代目です。

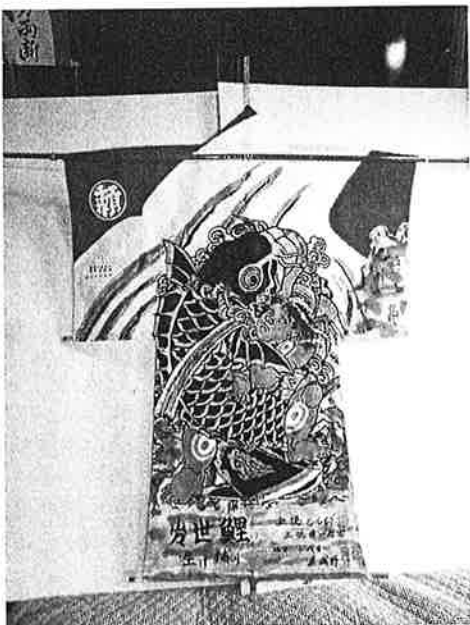
かつて九十九里地域では、凧揚げは5月の節句の行事として行われていたといえます。今では端午の節句、子ども誕生、上棟式、さらには社運隆盛を願う人々の運と願望を担っています。

上総とんびは、竹で骨組みを作るとき、縦骨が前に付き、それに和紙を張りまします。その外部に横骨が組み込まれています。かつては

フジラのひげを使って「うなり」と呼ばれるものを作り、独特な音を出しました。現在は代用うなりを用いて「うなり」を張っています。うなり棒は前に付け、後ろに張るのが代々伝承されています。

図柄は干支、武者絵、家紋の系統や日の出の鶴、寿などがありますが、「出世鯉生け捕り(写真の図柄)」という図柄が基本です。また女性が描かれた貴重な図柄も存在します。

現在も江戸時代の木版約40枚、図柄約80種類(木版両面刷り)、下絵約350点が技術とともに伝わっています。200年以上前の技術と伝統、用具が今でも継承されているのです。



【問合せ】 教育課 ☎(42)1416